



# 松原かわら版

世帯数 1,258 戸  
人口 2,973 人  
高齢化率(65歳以上) 29.4%  
(令和6年2月1日現在)

## 町会の負担軽減

町会とは、地方自治法第260条の2第1項により「町又は字の区域その他市町村内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成される団体」であり、区域の住民相互の連絡や環境整備、集会施設の維持管理等、良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行うとされています。

都心部では10年以上前から近所付き合いの低下が目立ってきましたが、ここ松原も例外ではなくなってきました。家族構成の変化、急速なデジタルツールの普及、さらに感染症拡大でコミュニケーション意識を失ったことから町会に対して大きな距離感を生むことになってしまいました。

町会離れの要因である負担軽減を図ることを目的に、昨年12月に全811戸へ、アンケートを実施し、258件の回答がありました。負担を感じる要素として、行事・会議の多いこと、時間をとられる

ことが挙げられており、高齢化による担い手不足とそれに伴う役員着任回数への不公平感が指摘されました。

松原には、いづら祭・ウルトラゲーム大会・文化祭を主軸に、新興住宅地ながら定着してきたイベントがいくつもあります。しかし、いつしか参加者が減少傾向となり、楽しさや喜び以上に負担を感じるようになってしまったのかもしれない。子どもが減ったことで対象が移ろい、健康は気になるも身体は思うように動かない、この現実を受け入れなければいけません。先日、中央公民館で行われた「未来へつなぐ私たちのま



ちづくりの集い」でも、時代の変遷により様々な団体が担い手不足が深刻化していることが取り上げられました。報道にもありました隣接学区の筑摩野中学校からPTA解散の事例提供がありました。子どものためのPTAが、いつしか親の負担で語られるようになってしまったこと、現在は「できることをできる範囲で・無理なく」をモットーに従来の形にこだわらない運営を目指すことで推進力を生んでいる様子が伝わりました。

地縁である町会へPTA解散の問題が必ずしも合致するものではありません。しかし、今回実施したアンケートでは、3分の1以上の世帯が運営に関心をもち、前向きな姿勢であることが読み取れます。

町会連合会が発足して20年。負担軽減とコミュニケーションのバランスを保った「令和版の町会」が歩みだせることを期待しています。

## 自然派 ワイン教室

2/26

スーパーや酒販店のワインコーナーには色とりどりのボトルが並び、値段も様々です。昔に比べて呑む機会の増えたワイン。購入したり注文するにも多種多様なものがあり、戸惑ってしまうことはないでしょうか。JSA認定ソムリエの座光寺明美さん(酒類輸入と販売のカーヴ・ド・ユニオン勤務)を迎えてのワイン講座に参加しました。

ワインの特徴は、日本酒やビールなどと違って原料に葡萄以外に全く水を使わないことです。発酵も葡萄の表皮に付着している天然酵母をそのまま使います。味と品質は葡萄と製造作業(熟成も含めて)で決まってしまう。葡萄の収穫は手作業で行い、洗浄も水だけで軽く行うことが多いようです。

ワインの銘柄とは別に、総称としてオーガニックとか自然派と謳われているものがあります。これは、農薬や化学肥料、防腐剤を使わない、もしくは最低限の使用に止めたワインを指しています。ワインの歴史は古く、紀元前6千年ごろのトルコなどの中東で製造の痕跡が見つかっています。自然派ワインは、



言い換えれば古来の製法を尊重して、より健康的で風味を引き出すことを目指しています。今回の試飲では、自然派ワインを中心に8種類のワインを飲み比べながら、葡萄の種類や製造法、熟成期間による違いや特徴を学びました。また、ワインに関するクイズが全員に出され回答用紙を提出しました。さらに葡萄の種類と産地が同じで、熟成期間が異なるワインを試飲して、違いを各自で答えました。その結果で一番成績の良かった宮田輝男さん(第3町会)に、ソムリエから素敵なワインがプレゼントされ、大いに盛り上がりました。

自然派ワインの試飲会は、ワイン愛好家や初心者にとっても貴重な経験でした。自然の恵みを大切に、手間暇かけて造られたワインの味わいに触れることで、ワインの奥深さや多様性をより深く理解するきっかけとなりました。

1/28

ニュースポーツ体験会



身体を動かす機会が減少傾向となる冬だからこそ運動を！パラリンピックでも話題となった「ボッチャ」「モルック」、マレットゴルフに近く馴染みやすい「囲碁ボール」の全3種目を室内で体験しました。



福祉ひろばでは、体力測定と足底圧分析を行い、自身の健康に向き合う1日となりました。

2/5

満蒙开拓を学ぶ



昨今の世界情勢から戦争の悲惨さについて学ぶべく、飯田市にある満蒙开拓平和記念館を訪問しました。多くの長野県民も動員され、家族と分断された体験談に触れ、平和の尊さを痛感しました。



まつばらの

できごと

2/3

節分講座



いまや節分の代名詞となった「恵方巻」。七福神に見立てた七種類の具材の入った太巻きを皆で作りました。

松原の健康課題でもある「食事速度の速さ」に関連付けられる「よく噛む」を意識しつつ、恵方を向き黙々と食べ進めました。



豆まきも行ったため、今年も公民館は清められたはず。

2/10

手作りバレンタイン

毎年恒例となっているバレンタインスイーツの手作り講座。今年は、生キャラメルと焼きチョコに挑戦しました。絶妙な火加減と素早さの求められる調理に苦戦しながらも見事完成しました。



心のこもったスイーツは大切な人に渡りましたか？

8年間を振り返って  
退館のご挨拶

下村 純

館長に就任した当初から3年間ぐらいは、生涯学習や社会教育、公民館とは何かを理解できませんでした。今でも人に自信を持って説明できるほど理解できていません。説明書に書いてあることの文字面は分かっているつもりですが、私にとっては何とも得体の知れないのままです。公民館長の仕事は、少しばかり大変だと思ったこともありましたが、やり甲斐もあつたし、とても楽しく過ごすことができました。8年の間には高齢の先輩方、働き盛りの人たち、小中学生、未就学児、学校の先生や色々な分野のスペシャリスト等々、様々な出会いと交流の機会をいただきました。それに職場の仲間たちのお陰で、他地区からも羨まれる職場環境で働くことができました。そんな素敵な仕事を辞めてしまうのだから、もう一度立ち止まって自分は何をしたのか、どうありたいのかを見つめ直して再スタートするつもりです。当地区も少子高齢化の波が押し寄せ、生活環境や地域自治の在り方内容の見直しが必要の課題になっています。今こそ問題意識を持ち、話し合い、知恵を出し合う時です。私も公民館で培った生涯学習の考えと実践力を発揮して、松原の住民として協力させていただきたいと思っています。

からくり時計

我が家では最近妻と二人の時間がかなり増え、出る話の多くは孫の成長している姿や行動と自分たちの今後の人生についてなどが多く、その中の一つに庭木の話があります。松原に40年近く住み、年を取った自分と大きくなった庭木を重ねて見つめる時間が多くなっています。妻からは「大きくなった庭木を今後どうするのか」と言われ、頭を悩ませています。

最近、兄弟や知人宅でも庭木を低くしたり、すっきり小さくしたりという話を耳にします。自分も剪定作業、まして脚立に上っての作業に大変大きな不安を感じていますが、全ての木に愛着や思い出が詰まっているため決心できかねています。しかし、今後の家族のこと、自分たちのことを考えると、ここが潮時かと思っています。自然との対話を大事にし、未来へ向けた決断をしていきたいと思います。

(編集委員)